

■ラスベガス調査レポート

我々は3年前にラスベガス調査に訪れていて、主要な場所の写真や資料に関しては充実したものがある。そこで今回はまだ未開拓のホテルのロビーを中心に調査してみることにした。ちなみに私自身は今回が初めてのラスベガスである。

まず美しい噴水ショーで世界にその名を轟かせているベラッジオの調査から行った。豪華な回転ドアを抜けるとそこには広大なロビーが広がる。天井のトップライト部分にはベネチアンガラスを用いた色とりどりの花のガラス細工で埋め尽くされ、そのガラスの花が光を浴びてシャンデリアの役目をしている。ロビーのベース照明はビームランプが用いられていて約50～60lx程度確保され、受付カウンターにはハロゲンランプのアジャスタブルダウンライトでタスク照明がしっかり取られている。天井にはぐるりと間接照明が2列で回っていて空間全体をより贅沢なものにしている。明るすぎず暗すぎず必要なところに光が用意され、流石はラスベガスの中でもトップクラスのホテルというだけあって光環境も手堅い。せっかくラスベガスまで来て噴水ショー逃すわけにはいかないのでロビーを調査した後にはしっかりとベストポジションで鑑賞した。最大で70mの高さまで上がる大迫力の噴水のパターンは全部で26種類、すべて制覇するには一日中噴水の前にいなければならない。もちろん夜のショーは言うまでもなくすばらしいのだが、昼間の抜けるような青空の下で見る

ショーも必見である。

その他、シーザーパレス、リオホテル、ベネチアン、MGM、フォーシーズンズなどのロビーも調査を行ったが、光の質の良し悪しはあるものの、MGMのコンパクト蛍光灯を使用した例外を除けば、基本的にベラッジオと同じく天井間接、ビームランプのベース、カウンターにハロゲンのタスク照明という手法であった。またリゾートホテルとして有名なフォーシーズンズホテルは、ラスベガス初のカジノのないホテルである。空間全体が他のホテルにはない高級感が漂っている。ロビーの照明自体は非常にシンプルで過剰な間接照明はなく最低限の明るさをビームランプで確保している。その他はスタンドライトが各所に配され雰囲気を作り出している。照明の要素の少なさが逆に高級感を感じさせる結果に繋がっていることに気づく。

■幸か？不幸か？

ここを見ずしてラスベガスを語るなけれな場所であるフリモントストリート。当然我々もこの場所に足を運びベストポジションを確保する。ふと周りを見回すと何か様子がおかしい。巨大アーケードの真中の1ブロックが封鎖されクレーンに乗った作業員が星の数ほどある電球の交換を手作業で行っている。運悪く大掛かりなメンテナンスを行う日にあたってしまったらしい。真中の1ブロックが封鎖されたままショーが始り周囲からはブーイングが……。照明探偵団的にはメンテナンス風景という貴重な写真がとれたと、ラスベガスは2度目の田沼団員は大喜

び、初めてショーを目にする私はなんとも複雑な気分がダウンタウンを後にした。

ラスベガスほど照明があふれている街は世界中探しても他にないのでは、と思う。エンターテインメントの光を体感したければ是非ラスベガスへ。
(岡本 賢)



昼も必見！噴水ショー。パリを背景に



定番！ベラッジオ夜の噴水ショー



フリモントストリートメンテ中……



ラスベガスの夜景。ストラトスフィアタワーより

フランクフルトメッセ

ドイツ・フランクフルト

2004. 04. 19 - 04. 20

森 秀人 + 戸恒浩人

2年おきに開催されるフランクフルトメッセ。今年も開催年とあって森団員とともに早速取材に出かけた。ヨーロッパと日本の照明スタンダードの違いや、最先端の技術に注目したい。



会場風景



スーパーミラー返しボール



DALIに準拠したフルカラースタンド

「あーだめだ。広すぎる・・・」噂には聞いていたのだが、フランクフルトメッセの会場はとてんで広くて最後は足がふらふら。各メーカーさんのブースで頂いた美味しいビールで酔っぱらいすぎたせいもある。2日間に渡って見た会場は、広さで東京のビックサイトの4倍、参加している照明メーカーの数も軽く10倍はあるだろう。

有カメーカーが集結する花形会場は、全体構成が実に見事。おしゃれに吊られた避難誘導ペンダントを残し全部消されていて、洗練されたデザインの各メーカーのブースが見事に映えて見えるのだ。闇を作ることで光が見えてくる・・・これこそ、照明デザインの原点だと改めて教えられる。

ドイツでは数年前ぐらいから、いわゆる“ミラー返し”の手法を採り入れた照明器具が人気で、今回のメッセでもかなりのミラー板や一体型の照明器具が展示されていた。日本では目にすることのない金属うろこのテクスチャーは、なるほど質実剛健イメージのドイツで見ると、なかなかハイテクな感じで悪くはない。でも空間単位の小さい日本では、あまりにも反射板が大きいし、天井も低いので使いこなすのは難しそうだ。

ヨーロッパでは DALI (ダリ: Digital Addressable Lighting Interface) という各器具を個別にデジタル調光制御する規格が発展していて、DALIに準拠した照明器具やシーン制御システムが各社から発表されていた。なかでも ERCO や Zumtobel、Targetti をはじめとして RGB の3本の蛍光灯によるフルカラーの演出照明が大々的に発表されていて、DALIの影響力

の強さを感じさせられた。

フルカラーの演出といえば LED がまず思い浮かぶ。日本ではめざましく進歩する LED の照明器具が多く登場しカタログをにぎわせているし、僕ら照明デザイナーも積極的に採用している。当然メッセでは LED 器具の新商品が出ているかと思ったら、特に LED で目新しい商品はなく、もっぱら先の RGB 蛍光灯器具が登場していたのだ。 “よりハイパワーで LED よりも中間色がきれいに出来るから・・・” というメーカーさんの解説を聞いて、なるほど理に適っている。でも蛍光灯を使う手法自体は昔からあるし、ちょっと古典に戻った感のある風潮に、正直なところとまどいを覚える。

ここ数年の不況のため旧来商品の見直しに重きが置かれたらしく、全体的にメッセにおける商品の開発パワーは今ひとつ。そのなかでは屋外照明について各メーカーのラインナップが充実してきたこと、浮遊するような可愛らしいカタチのペンダント・スタンド類が流行であることが特徴として挙げられる。

最後にメッセに合わせて開催された Luminale を紹介したい。これはフランクフルト市内80カ所で行われたもので、メッセを訪れた僕らのような関係者や市民の夜を大いに楽しませてくれた。1つの会場につき1つの協賛メーカーが器具や設備を提供して行われており、有名なレーマー広場や中央駅、美術館などがコンセプトチャルにライトアップされていた。市内は歩いて巡れる広さなので、パンフレットとカメラ三脚を片手にみんなで照明探偵。これは是非日本でもやりたいなあ。

(戸恒 浩人)



かわいいカタチがいっぱい

第22回街歩き

横浜みなとみらい線

2004年05月12日

■みなとみらい駅

みなとみらい線の全駅に共通する形状として地下3階がプラットホーム、地下2階が改札、そこから地上階へという基本形があるのですがこのみなとみらい駅は地上階にクィーンズというショッピングモールが直結しており、地下3階のプラットフォームからも部分的に上層階のショッピングモールまでを吹き抜けてある空間もあり、開放感あふれる風通しのよい雰囲気です。一言で言い表すと若々しさあふれる空間。使用されている色調は赤、青、黄、マットシルバーのはっきりとした色味で構成された大胆なラインが若者のような思いつきのよさを表現しているように思われます。素材もマットシルバーやブルーのアルミプレートを壁面天井面に使用し、素材でも横軸への流れなどのスピード感あふれるデザインとなっています。照明もこの若々しさを強調するような白色の光で統一されており、全体をほぼ均一に白く明るく照らしている感がありました。たとえるなら夏の屋間の浜辺のような光の状態であり、この駅の象徴しているような若者たちが楽しく遊んでいる海辺の気分が感じられる光にも思われました。

■馬車道駅

こちらはみなとみらい駅とは対照的に落ち着いた大人のムード。横浜のひとつの面である、昔ながらの大人の横浜を象徴しているようです。旧横浜銀行の壁面をデザインエレメントのひとつととらえたことで、駅構内全体に使用されている素材も赤味がかかったレンガを主とし、色味もレンガの赤よりの茶色からチャコールグレー、白、といった落ち着いた色調で統一されていました。照明はメインの素材であるレンガの美しさを引き立たせる為にか？電球色の光源によりレンガで構成された壁面は明るくされ、レンガという素材ならではのさまざまな色調の違いが美しくあらわれていました。天井が低めの場所は電球色が使用され、吹き抜け部分などの天井面が高めの部分は白色の明かりが使用されており、その小さな変化でも、素材や色の構成のシンプルさの中では空間スケールの感じられかたの違いに大きく貢献していると感じます。肝心の旧横浜銀行壁面の一部が一角に現れていたのですが、なぜかそこに限って白色の光源で照らされており、電球色で照らされたレンガの美しさをと隣合わせて比べると、その平坦な見かけは物足りなさを感じさせるものでした。

■元町中華街駅

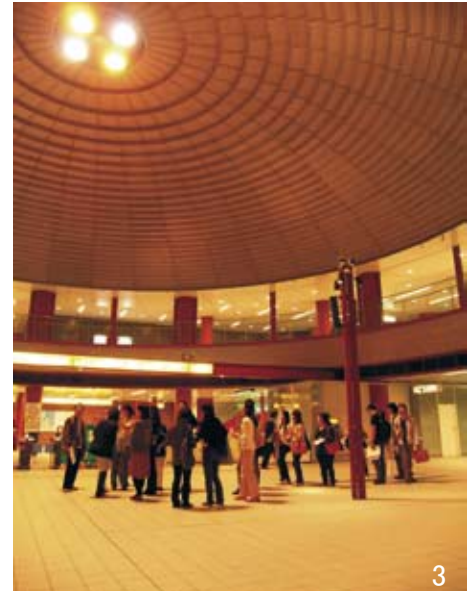
こちらは一言で言い表すならば、最近のおしゃれなカフェのような様子。真っ白な壁面に過去の横浜の人々のモノクロの写真が配置されてい

みなとみらい線は横浜から横浜中華街をむすぶ地下鉄線で、新高島町、みなとみらい、馬車道、日本大通り、終点横浜中華街の5つの駅をむすんで運行されています。日本大通りを除く4つの駅はそれぞれ異なる建築家によって設計されており、4つの駅とも構造はほとんど同じ形、という条件の中、それぞれの建築家の方たちどのようにその限られた空間を素材、光、色でそれぞれの個性をだされていったか、というのが大きな見所でもありました。

ます。無機質なつくりとした壁面の材質といい、白一色の色調といい、すべてはこの壁面グラフィックを引き立てるための素材と化しているように思えます。それは照明に関しても言われることであり、たとえばプラットホームに関して、電車に乗り込む位置の照度よりも、プラットホームに立って奥のグラフィック壁面への照度の方が高くしてあります。さらに、プラットホーム空間へと移動するエスカレータ空間は壁面を黒一色に統一されており、この暗く細いエレベータ移動空間の助けもあり、プラットホーム空間へと抜けたときの白一色の世界の明るさの中に浮き出る壁面のモノクロ写真のイメージがなおのこと印象深く感じられる気がしました。

3つの駅はほぼ同じ構造形態でしたが、建築家によってこんなにも印象の変わる仕上がりになるのだ、ということと、それぞれの建築家の方々がそれぞれのデザインにおいて一番大切にしたい部分をより強調し、よりよいものとするための光の役割がとてつと伝わってきた気がしました。(谷本 佳子)

1. みなとみらい駅
2. 元町中華街駅
3. 馬車道駅
4. みなとみらい線電車内
5. 中華街ゲート
6. 集合写真



第25回 研究会サロン 2004年05月31日

街歩き、シドニー調査報告、ラスベガス・ライトフェア調査報告、フランクフルト・メッセ、パリ調査報告など

2004年5月31日、初夏を思わせる陽気の中、19時から照明探偵団のサロンがLPA2階丸テーブルにて行われました。今回は海外調査レポートが3件、街歩き報告が1件、そして窪田団員からの海外調査レポートと盛りだくさんの報告会となりました。

まずはじめに、田沼団員からのオーストラリア・シドニー調査の報告からサロンは始まりましました。田沼団員が現地を訪れた時期はあいにく曇りや雨の天気が続いていたようですが、おなじみのオペラハウスの写真はやはり迫力のあるもので、昼間の写真からも夜の風景がどのように変化して見えるのだろうか？と期待のできる景観。しかしながら、さて夜間の写真になると…ちょっと残念！建築の面白い形を生かしている照明計画はまだ充分ではないのかもしれないですね 建築物のメインとなる形状の先端部分におかしなスポットライトがついていたり…もっと素敵な夜景の造れる要素はそろっていいような気がするのですが。対象的にオペラハウスへと続くボードウォーク沿いに週末に出現するという連続したカフェテントへの規則性のある様々な色の照明は遠景からはとても美しく、シドニーの人たちの楽しげな週末の過ごし方を垣間見たような気がしました。

続いて岡本団員よりラスベガス・ライトフェアの調査報告がありました。ライトフェアではさすがアメリカ！華やかな演出が可能なLEDを様々な形で発展させた商品が盛り上がっていたようです。それらのLED関連の製品群に加えてルートロン社の新製品はかなり画期的なものであり、照明の調光システムに加えて自然光の室内へ

の入り方もブラインドの昇降をコンピュータ制御によってコントロールしよう、というシステム。照明に加えてこの環境やエネルギーに配慮していこうというシステムは他社よりもずっと遠い未来へと照明の未来を考えているように思えました。加えてラスベガスの市街の調査写真の発表、そしてかの有名なベラッジオホテル前の噴水の模様がビデオで上映され、サロン会場からはどよめきが！オーシャンズ11という映画の中でも主人公達の集合時の背景にかっこよく使われていた、あの、噴水です！何通りもの噴水形状がプログラミングされていて時間ごとに壮大な噴水ショーが行われています。さすがアメリカです。さすがラスベガスです。考えることが違います！

会場がもりあがってきたところで面出団長よりフランクフルト・メッセとパリの調査報告が始まりました。ラスベガスとは一転してヨーロッパ、フランクフルト。同じ地球上にありながら、飛行機で何時間か移動するとこんなに雰囲気が変わってしまうのですね。ラスベガスとは対照的に上品な大人のムード。会場の駐車場に設置されている照明器具さえもスタイリッシュで間接光を意識した器具。会場で頻繁に見られる製品もLEDよりも蛍光灯に調光や色のファンクションを加えたもの。会場内のどのブースの写真を見ても上品、スタイリッシュ、大人。土地柄なのでしょうがそれに加えてこのショーの会期中に街中でおこなわれている既存建築のライトアップが興味深いものでした。ヨーロッパの街独特の石造りの古い建築物にちょっとだけ手を加えて照明で柔らかな色彩を要素要素に加える

と、既存の上品さに色っぽさが加わるような風景が生まれるのですね。

そして田中智香団員よりの街歩き報告がありました。5月12日に街歩きが行われたのは横浜みなとみらい線。私も参加したのですが、横浜市民の私としては日常的に目にしている駅という場所を照明の観点か検証するとどう見えてくるのか？とても興味深いものでした。この線の駅は従来のものと違い、それぞれ建築家が違い、さらに照明デザイナーも付いていたり、いなかったり。同じ線上の駅舎なのに、同じ形状の構造物のはずなのに、こんなに違ってしまふんですね！この違いは建築家もさることながら照明の効果なくしては生まれてはこないものですよ。

最後に、オオトリ！窪田照彦団員よりのイタリア調査報告。イタリアの夜景をモーション映像、音楽をあわせての凝ったプレゼン手法で見せてくれました。中でもローマのコロッセオの夕刻からブルーモーメントまでの移り行く風景の連続写真はうわ〜！と、うっとり眺めてしまう映像でした。暖かいオレンジ色の照明がほんのりと建造物を照らし出す様子、それとは対照的にだんだんと深みをまして行く背景のブルーはその2つの取り合わせが実に絵画的です。

今回が私にとってはじめてのサロンへの参加だったのですが、こんなに職業も背景も違う様々な皆さんが照明というものへの興味によって集まり、話し合ったあり笑ったり、感動したりする機会とは大人になると貴重なものですよ。今後とも大切にしていきたい会ですね。

(谷本 佳子)



春の訪れ・・・Parisのアスパラガス

パリに春がやってきました。日差しの柔らかさがそれを伝え、木々に芽吹く透明な青葉が風にそよぎ、極太の白アスパラガスの柔らかさに決定的な春の幸せを感じます。

一週間前には雨混じりの寒い日々が続いたそうです。しかし私がシャルルドゴール空港に着き、ボザールの近く、サンジェルマンの私の定宿、オテル・ダングルテールにつく頃には、誰もが疑いもなくパリの最も爽快な季節、春を手に入れました。本当に気持ちのいい昼下がり。正確に言うと、春を告げる白アスパラガスが市場の店先を占拠するのは5月1日からなのですが、それを待ちきれずに、とんでもなく極太の(男性なら誰もが嫉妬するような)立派な形のものが4月末から出始めるのです。もちろん白アスパラガスは頭から根元まで、柔か過ぎずに程よく茹で上げただけのもの。それに酸味を加えた溶きバターを少し絡めて、潔く口の中に放り込む。これが正統派の季節の食べ方。ううう～。思い出しただけで、またパリに戻りたくなるのです。

私がこの10年来の定宿とするダングルテールは、Rue Jacobという味わい深い小道に面したプチホテル。昔ながらの清楚な部屋もさることながら、細長い中庭に差し込む陽射しに心を奪われることしばしばです。このホテルの周りには幾つもの有名レストランやブラッセリーやカフェがあってけっこう楽しめます。しかし今回はロブションに電話しても、タイユヴァンに聞いても、「白アスパラガスは未だおいてません・・・」。仕方なくサンジェルマン大通にからむ道をひた歩いて一軒一軒「白アスパラはある？」と聞きまくったのです。ついに見つけたカフェレストランは1686年にパリに初めて登場したという老舗ル・ブローブ。気取ってなくて良心的な値段でお勧めの店です。太い白アスパラガスが6本横たわった皿が18ユーロ。その前菜にぷりぷりのジューシーな生ガキ6個。冷えたシャブリをグラスで2～3杯だったかな? たいへん満足な年に一度の昼食。一緒に騒いでくれる友人も手配できず一人きりの食事ですが、それでも100%の満足が得られたのは、アスパラガスの力です。季節の食材にただ感謝するばかりです。

今回の出張は、パリでは建築家 Paul Andreu との北京オペラハウスの照明計画についてのミーティングがあったのですが、今回は「世界照明探偵団の本」のための原稿も書いていたので、3泊ほどしました。アスパラガスの次の日には、これも私の定番マドレーヌに近いポトフ屋さんに行きました。

もちろんポトフを食するのですが、前菜にパテとスープ。パテは素朴な田舎風、パンに強引

に押し付けながらいただきます。スープは野菜とお肉の滋養エキスがたっぷりの透明なコンソメ風。少し塩気が強いけれど、奥深く主菜のポトフを期待させるに十分な役者です。どこの小さなテーブルの上にも、決まりの4品が置かれています。つまり、店で詰め合わせる赤ワインのボトル、5～6cm程度のきっちり漬かった胡瓜のピクルス、荒挽き岩塩とマスタードです。ボトルに詰めかえられたワインはどのようにチャージされるのか理解できません。少し飲んでも全部飲んでも同じ値段なのでしょう。だから積極的に飲みます。

さて、ポトフの中身に移りましょう。まずは牛の背骨の髄が逸品。4cmほどに輪切りにされた背骨の中心部はトロツととろけるプリン状の髄液に満たされています。これをスプーンですくってこんがり焼けたパンの上に乗せ、岩塩をばらばらと振りかけて食します。いいようのない甘さと口当たり。ポトフにはこれが欠かせないそうです。もちろんたっぷり煮込んだ牛肉もついてきますが、これは牛肉なので特別のことはありませんが、マスタードをたっぷりつけて野菜の合間にいただきます。何といっても野菜の美味しさには勝てません。私の最も好きなのはくったりと煮込んだ葱です。ポアレ葱というのですが、繊維のなくなるまでに柔らかく煮込んであるので、フランス人はこれを「貧乏人のアスパラガス」と形容するように、とろけるような甘さを持っています。他にはキャベツ、にんじん、かぶ、ジャガイモなどがスープ煮になっているわけですが、酸味の利いたピクルスを数本ピンから取り分けて、これらの野菜に沿わせます。岩塩をばらばらするのを忘れずに。この塩の中に滋養に充ちた甘みも感じます。

気がついてみると、何故か、帰りの飛行機の中でパリの照明探偵について書くつもりでしたが、食べ物のお話ばかりになりました。大きく脱線している様子です。はじめてモンパルナスターの屋上に登って360度のパリの夕陽と夜景を堪能したことや、夜遅くまで点るカフェの明かりについては次回探偵ノートに任せます。

私の場合には、光は常に季節の風や食べ物と一緒に記憶されます。いい思い出を作るには様々な気配を創る状況が重なり合う必要があります。今回はパリで幸運な気配に出会いました。思い出は日に日に積み重ねられていきます。そのようにして都合のいい記憶は確実に私の血肉となり価値となっていきます。今回は数時間前までのパリの風景を記録しました。随分長くなってごめんなさい。

040424 土曜日。Paris から Tokyo へ戻る飛行機の中で・・・ (面出 薫)



左手にジョッキ。右手にデジカメ



極太のホワイトアスパラガスにううう～



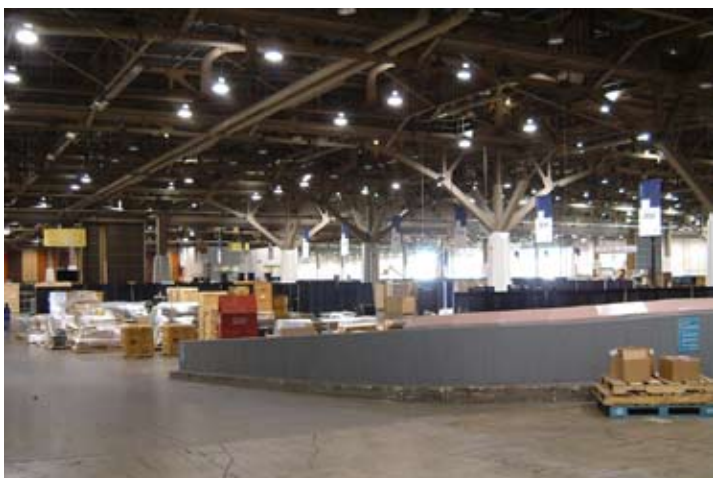
モンパルナスターからエッフェル塔を見る

面出団長講演

Lightfair International 2004 in LAS VEGAS

アメリカ・ラスベガスで開催された Lightfair International 2004 で、面出団長が「Kaoru Mende on Design」と題した講演を行いました。2004年3月29日、会場は Las Vegas Convention Center Room #209。

講演はなんと3時間×2セット、午前 9:00 - 12:00、午後 2:00 - 5:00 に渡り行われ、さすがに面出団長も疲れた様子でした。1回 20人程度の参加者でしたが、LPA のプロジェクトを紹介しながら、照明デザインの考え方やデザインプロセスもたっぷり聞けて、参加者は満足そうでした。



広大な展示会場の設営風景



参加料は一人 US\$175 という高値。皆、熱心な人ばかりです

★★投稿募集中★★

照明探偵団通信 vol.20 (次号) の原稿を募集しています。独自の照明探偵レポート、光に思う今日の日本、照明について知りたいこと、疑問に思っていることなどなど、テーマは何でも結構です。日頃ひかり、あかりなどについて思っていることや様々なレポートを照明探偵団通信に発表してみませんか。原稿は、e-mail で送付して下さい。メール上記述でも原稿テキストファイル添付でも OK です。

投稿お待ちしております！

照明探偵団・事務局

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-28-10

ライティングプランナーズ アソシエーツ内

TEL : 03-5469-1022 FAX : 03-5469-1023

e-mail: tanteidan@lighting.co.jp <http://www.lighting.co.jp/tanteidan/>

照明探偵団日記

夏至もやります、キャンドルナイト！6月20日に『100万人のキャンドルナイト@キャットストリート』が行われます。というか、この通信が皆さんの手元に届いている頃には無事終わっていることを祈るばかり・・・準備がよいよ佳境に入って参りました。キャットストリートでのキャンドル・パフォーマンスとしては、昨年の冬至に続き今回が2回目。表参道と直交する旧渋谷川約700m、かつての川の暗渠上にある遊歩道、通称・キャットストリート。この沿道で照明探偵団、武蔵野美術大学面出ゼミ、多摩美術大学や慶應義塾大学などの有志を中心に今年もキャンドルを使ったパフォーマンス行います。今回は面出団長+照明探偵団がスターボックス・表参道 B-SIDE 店を、デザイナーの深澤直人氏がご自身の事務所ビルでのキャンドル・パフォーマンスを担当することになり、全体の熱気も上昇中。昨年も力作揃いでキャットストリートの景色をキャンドルで一変させたこのイベント。次回通信ではご報告できると思いますので、どうぞ楽しみに。(田沼 彩子)

【照明探偵団の活動は以下の22社にご協賛いただいております。】

ルートロニアスカ株式会社 岩崎電気株式会社 小糸工業株式会社 株式会社菱晃 カラーキネティクスジャパン株式会社 松下電工株式会社 株式会社ウシオスペース ヤマギワ株式会社 山田照明株式会社 マックスレイ株式会社 ニッポ電機株式会社 株式会社エルコ・トートー株式会社 ウシオユーテック 日本フィリップス株式会社 トキ・コーポレーション株式会社 東芝ライテック株式会社 大光電機株式会社 金門電気株式会社 小泉産業株式会社 マーチンプロフェッショナルジャパン株式会社 湘南工作販売株式会社 株式会社遠藤照明